



No. 8

自然が好き

生きものが好き

サポちゃん
通信

目次

・異端なワタクシ	2
・ただいま避難中（虫）	4
・今年もやります ライトトラップ！	5
・樹脂封入標本を作ってみました	6
・アミメカゲロウの仲間	8
・ラクダムシに会うのは楽だけど楽じゃない	10
・テントウですが・・・	12
・気になる木	13
・鴻ノ峰の生き物図鑑	14
・表紙描いて四方山話	16
表紙・イラスト	原まゆみ

異端なワタクシ

私以外の動物サポーターのみんなは昆虫採集とか育成とか標本づくり等が好きですが、ガーデナーである私にとって虫は天敵！

せっかく膨らんだバラのつぼみを萎れさせてしまうバラゾウムシ、2メートル以上に育っていたシークワサーを枯らせたゴマダラカミキリ etc…わが庭で数々の痛い目にあってきました。駆除、排除に努める日々です。異端の動物サポーターです。

そんな私ですが、30年にわたって飼育している生き物がいます。それは、ミミズ。オーストラリアから直輸入したミミズ御殿に住み、世代交代を繰り返しながら台所から出た野菜くずなどを食べて良質な堆肥を作り出す生ごみリサイクルを担ってくれています。

数えたことはないのですが何万匹という単位ではないでしょうか、御殿をのぞくとウジャウジャ蠢いています。嫌いな人には阿鼻叫喚でしょうが、私にとってはよし、今日も頑張ってるねと頼もしい光景です。ミミズ堆肥は花壇に入れて花作りを助けてくれますしね。

冬や真夏は活動が鈍り、スイカやカボチャなど甘いものが好きなど、飼

っているうちに色々分かってきて面白いものです。…って、あれ？分野は違えどサポーターのみんなと似たような事やってるのかしら(*'▽')

(間田敬子)



秘密のミミズ御殿



ただいま避難中(虫)

マンション12階の我が家には思いがけず様々な昆虫が飛んでくる。衝撃的だったのは「ヘビトンボ」、網戸の向こう側で揺れていた。

うわ・・・何？調べてみると「ヘビトンボ」だった、ドキドキものでした。

「コクワガタ」の早らしき黒い昆虫がベランダに降り立ちサッシの下側に潜り込んでいた、暑かったのだろう。

「コガタスズメバチ」らしき個体がベランダや玄関横で休んでいる事もある。ドアノブの横には見たこともない赤い昆虫がいて「ホシベニカミキリ」でした。部屋の中で飛んでいた昆虫を叩き落とすとなんと綺麗な「オオセイボウ」でした。玄関横のサッシには蛾の仲間が張り付いていてビックリ！

最近もベランダに「ヒゲコメツキ」がいて、サポーター活動の時に持参しようと思っていたが動かなくなったので標本にした。昆虫は結構高い所を飛んでいて雨や風・暑さ寒さを避けて避難してくる。そんな昆虫をドキドキしながら捕まえています。(本間喜美恵)



ホシベニカミキリ (カミキリムシ科)



蛾の仲間



ヒゲコメツキ (コメツキ科)

今年もやります ライトトラップ！



月に1回程度行ってきた、糸米川砂防園でのライトトラップ。今年は5月、6月と2回行った。

6月は風雨のため1週間延期したが、2回目も雨。幸い風は無く思い切って実施した。

雨の中、最初は飛来数が少なかったが、8:30～9:00PMの間に一気に増え、雨の中でも9:30終了の頃には70頭弱の蛾を採集できていた。

翌日、展翅を行ったが、特に嬉しかったのはギンモンカバマルハキバガという開帳9mmほどの小さな蛾が採集できていたことだ。

この蛾は全体がオレンジ色の中にくっきりとした白い紋があり非常に美しい。図鑑で見えていたが、どこで会えるのか分からず、ずっと憧れの蛾のひとつであった。たった1頭であるがこのエリアにも発生が確認できた事が嬉しかった。

この他にも過去の同時期のライトトラップで採集できていなかった種類も多数おり、今後の同定が楽しみである。

日中の採集は歩きまわって昆虫を見つけていくが、ライトトラップはまさに“飛んで火にいる夏の虫”。待っていると向こうからきて、1回で多数の種類に出会える採集方法。

今年は何種類の蛾に会えるのか、次回が楽しみである。

(吉本進)

樹脂封入標本を作ってみました

標本は本来、ある生物を生きているときに近い状態に保つことでその生物の種類、記録、種の同定などに役立てるものです。私たち動物サーターは採集した昆虫を乾燥標本として同定、採集者、採集日を記載後、標本箱に入れて保管しています。標本箱には虫ピンで昆虫標本を刺しているのので標本上面から観察できてチョウやガ、トンボなどの翅のかたちや模様がよく見ることができます。その一方、標本上面以外の面を観察するためには標本箱から取り出さなくてはなりません。そこで標本を六面全部から観察できるよう透明の樹脂に閉じ込める樹脂封入標本作りを試みました。

手順として封入溶剤のポリエステルに硬化剤を混ぜます。プラスチック容器の 5mm 程度の高さに流し込みます。これが土台となる 1 層目となります。硬化時間は気温によって差はありますが、2~3 日かかります。1 層目が硬化したら 2 層目として保存していた乾燥標本をセットして標本の表面が少し出るくらいまで封入溶剤を流し込みます。3 層目として標本全体が覆われるように封入溶剤を流し込みます。全部の硬化が確認されたら封入された標本を容器から取り出します。最後は封入標本の仕上げとして形成と研磨をして完成です。

今回は標本として作りやすいコウチュウ（コガネムシ、ハンミョウなど）を使いました。最初は溶剤が完全に硬化しなかったり、気泡が混じったりしましたが、硬化剤の量の調整、硬化剤の混ぜ方（紙製のスプーン使用）で改善できました。また乾燥標本のセット後、標本が浮いて位置がずれたりしたので標本の足部分を 2 層目流入前に固定する工夫が必要でした。完成した封入は大きさも手頃でいつでも手元に置いてハンミョウやコガネムシたちの美しい光沢ある姿を眺めることができました。今後は迫力ある姿のスズメバチやカブトムシなどの大型昆虫、チョウやガも試していきたいと思います。

(村上敬司)



試行錯誤 手にとって昆虫を観察できるよう！ 進化中



オオスズメバチ（スズメバチ科）の詳細な観察に樹脂標本は最適

アミメカゲロウの仲間

サポちゃん達の連絡網というのものが、もちろん連絡も時々はあるのですが、それぞれが見つけた珍しい生き物の写真などがよく送られてきます。

ある日、上田さんから散歩途中に見つけたというラクダムシの写真が送られてきました。首が長い！首に見えるけど、首なのか？昆虫は頭、胸、腹に分かれると小学校で習ったけど、昆虫に首ってあるのかなあ、そんなことを考えていたところ、数日後、秋吉台の長者が森付近で、黒と黄色の縞模様の虫を見つけました。

ハチかな？と観察すると、首が長い！形も、薄い羽根の様子も上田さんのラクダムシに似ています。老眼でよく見えないけれど、頭の横に扇型のものがついているようです。持って帰りたい。しかしここは国定公園秋吉台、悪い心を抑え込み、スマホで写真を撮りました。写真を拡大してみると、頭の横の物は鎌のようです。連絡網に写真を送り、サポ仲間に見てもらったところ、やはりラクダムシと同じアミメカゲロウ目で、ハチに擬態しているカマキリモドキだろうということがわかりました。

上田さんのラクダムシの写真を見ていなかったら、ハチと思い、観察したり写真を撮ったりすることもなかったと思います。生き物を一緒に楽しむサポーター活動は楽しいことや新しい発見がたくさんあります。

後日、ラクダムシの首らしきものは首なのか？について調べてみました。ラクダムシの成虫は前胸（前羽の付け根から頭部までの部分）が細長くのびているのが特徴、首のように見えたのは胸の一部でした。

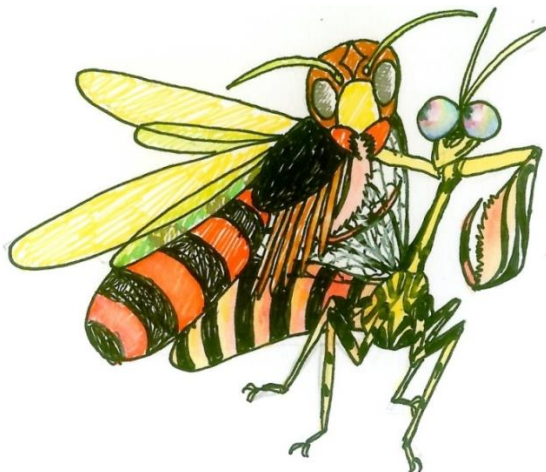
また、ラクダムシの名前の由来は頭部が横向きになったときの形がラクダの首とにていること。カマキリモドキは前足が鎌の様になっているからカマキリモドキ。同じアミメカゲロウ目で姿形も似ているけれど名前は全く印象が違い、それもまた面白いなと思いました。

また、サポーターが観察を続けている鴻ノ峰でも、6月におなじアミメカゲロウ目のヘビトンボを山田さんが捕まえました。やはり首が長め

ですが、名前からは、三種が似た外見を持っていることは想像ができませんね。(村中明子)



ツマグロカマキリモドキ（カマキリモドキ科）開張約 3 cm
秋吉台などの草地で観察される。生活史は変わっており、カマキリモドキ類の生まれたばかりの幼虫は、クモの体にとりつき、そのクモが産卵するとき卵のうに入り込み、卵のうちでクモの卵を食べて育つ。成虫になるのはわずかなため、なかなか見つけることができない。



ラクダムシに会うのは楽だけど楽じゃない

6月、好天のお昼時、サポーター仲間の犬の散歩道でもある吉敷畑ののどかな道を歩きました。鴻の峰での昆虫採集の習性でしょうか、どうしても何か虫がいないかなという虫探しの目になります。

道端にはカラムシがたくさん生えているので、ラミーカミキリがあらちらこちらにいました。ハムシの仲間やゾウムシの仲間もいます。ハチの仲間も飛んできましたが、ハチのようでハチではありません。スマホで写真を撮り、拡大してみると、おおー！これはもしやと、検索して確かめるとラクダムシでした。5、6年ぶりの出会いです。

サポーター活動を始めて、この虫何かな？と調べることが楽しくなると、昆虫図鑑を見ることが楽しくなりました。そして、図鑑の中には不思議な昆虫がたくさん載っているので、いつか本物に出会えるといいなと思うようになりました。ラクダムシもその一つです。面白い名前ですよ。首が長くて胸が膨れているところがラクダを思わせるからだそうです。

ラクダムシとの最初の出会いは、5、6年前、レノファ山口の試合観戦のために、山口維新公園の木陰で昼食を食べた後でした。ふと周囲の草を見ると草の上に止まっていたのがラクダムシでした。

2度の出会いは、ラクダムシからやって来てくれたので出会えたのであって、こちらから探したわけではありません。3度目の出会いはあるのでしょうか？欲を出すと会えないような気がします。忘れたころに、ほら、ラクダムシだよとふらりとやって来てくれるとうれしいです。

(上田 貴子)



ラクダムシ（ラクダムシ科）開張約2cm メス個体で産卵管がある。
幼虫はマツやスギの樹皮下で発見される。



テントウですが・・・

林道沿いのヒイラギの葉に小さな黒い虫を見つけました。ドーム型・背中に2つの赤い星。テントウムシ?でもよく見ると触角の形が違い、触ろうとすると「パシッ」と跳ねました。



ヘリグロテントウノミハムシ
(ハムシ科) 体長約4mm
ヒイラギモクセイなどを採食

これは、ヘリグロテントウノミハムシ。いかにも「テントウムシです!」という姿ですがハムシの仲間なのです。

逆にテントウムシだけちょっと個性的なカメノコテントウを紹介します。お馴染みのナナホシテントウやナミテントウと大きく違うことが4つあります。まず、体長が8.0~11.7mmと大きいこと(ナナホシは5.0~8.6mm)。次に、つば付きのヘルメットのような変わった形。そして、背中の独特な模様。星ではなくて亀の甲羅?みたい。さて、最後は・・・あの臭い汁です。

以前、クモの巣でぐるぐる巻きにされているカメノコテントウを見つけた事があります。その巻きついた糸の一部がなぜかピンク色になっていて不思議だったのを覚えています。

最近読んだ本に「カメノコテントウは、普通のテントウムシと違って、赤い汁を出す」と書かれていました。そうだったのか!ガッテン。ようやくピンク色の謎が解けました。

日本には約180種類のテントウムシが確認されているそうです。さてさて、次はどんなテントウに会えるのか、楽しみです。(藤田かおる)



カメノコテントウ (テントウムシ科)
クルミハムシなどの幼虫を捕食



気になる木

近所のクリの木です。高さは4mくらいですが道路より一段下に植えてあるのでほぼ全体が見えます。若葉の上には小さなテントウムシが必ず見つかるので、横を通るたびに「今日は何匹かな・・・」と眺めていたら、全身赤いのが葉の上を動いているのが目に入りました。何だろうと捕まえて調べたら、それは「ナミテントウ」の紅型。ポケット図鑑「日本の昆虫」によると『ナミテントウの模様は、大きく4つの型（二紋型、四紋型、紋型、紅型）に分けられるが細かく見ると100以上もある』と書いてありました。

そこで、この木で何とおりの模様が見つけれられるのか小さな挑戦を始めました。私が普通に見慣れているのは二紋型。日に何度も覗いているので数日のうちに四紋型も紋型も見つかり、紋の位置の違うのもいたのでこれまでに5とおり見つけました。花も終わりこれからイガが大きくなって落葉するまで目が離せません。果たしてあといくつ見つけられるでしょうか。

ハチやカメムシ、チョウなど他にもいろんな種類の昆虫が寄って来るこの木で、同じテントウムシの仲間でもとても珍しい「ハラグロオオテントウ」にも出会えました。この前、Eテレでカマキリ先生がテントウムシの「点」集めを競っていましたが、このテントウムシには16個もの大量点。もし私も参加したら、畑の野菜に来るテントウムシのも加算して、たちまち勝ちそうな気がします。

(山田恵美子)



ナミテントウ（テントウムシ科）紅型
体長 5-8mm アブラムシを捕食する



ハラグロオオテントウ（テントウムシ科）体長約12mm と大きい

鴻ノ峰の生き物図鑑



シロズキンヨコバイ（ヨコバイ科）体長 5.5 mm 藤田さんがカエデの木で採集し、種名を調べているときに小楯板（しょうじゅんばん）におじさんの顔があるのを山田さんが見つけて、頭巾ヨコバイの仲間であることがわかった記念すべき写真。



ゴミグモ オス



ゴミグモ メス

ゴミグモ メス（コガネグモ科）体長 10-14 mm メスは食べかすや脱皮殻を網につけカモフラージュする。メスがどこにいるのかよく見ないとわからない。ゴミグモ オス 体長 7-8 mm（左上）オスはメスに比べ小さく、メスの巣に来て交接する。まるで鎧（よろい）をつけたような体に惹かれる。

鴻ノ峰の生き物図鑑



アカハラゴマダラヒトリ (ヒトリ
ガ科) 隠れた腹部は赤く目立つ



台湾キシタアツバ (ヤガ科) 幼虫はヤブマ
オの葉を食べる。見えない後翅は黄色



マミジロハエトリ (ハエトリグモ
科) オス 体長約 7mm ガガンボを
捕食中



ハリゲコモリグモ (コモリグモ科) 体長メス
4-7mm 歩き回り獲物を探す



トラマルハナバチ (ミツバチ科) 体長
10-18mm 巣は土の下につくる



ニッポンヒゲナガハナバチ (ミツバチ
科) 体長 14mm 触角が長いのはオスのみ

ハンツ かぶるの？

毎日、ハンツをいまにもかぶりそうにのぞいています。

何をしようかというとき... ムカデがないか点検!!

と、いうのも... 浴室でタオルをつかんだら激痛、

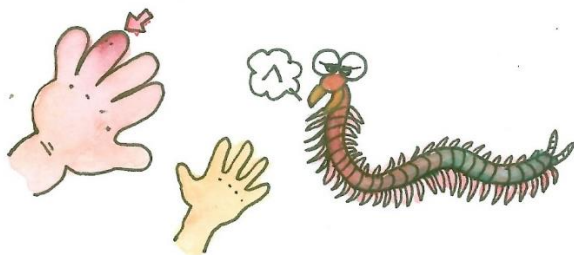
あ... おまじか!? おのん* ムカちゃん!!

一晩痛みで寝られず、3日間グローブのような手ですごしました。

猛暑や豪雨、虫達も安全な所へやって来ます。

皆様、ご注意を!!

原まゆみ



山口博物館サポーター一動物班活動報告 “サポちゃん通信” No. 8

発行 2021年8月3日

編集 山口県立山口博物館サポーター一動物班

発行 山口県立山口博物館 〒753-0073 山口市春日町 8-2

Tel 083-922-0294 Fax 083-922-0353

サポちゃん通信バックナンバーも閲覧可能

<http://www.yamahaku.pref.yamaguchi.lg.jp/supporter.html>

